

明治大学 2019 年度【夏期】 国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

研修先名	リヨンカトリック大学
所 属	商学部 商学科 1 年

留学先での学習(実習)内容およびご自身の学習成果について記載してください。(250～300 字程度)

現地での授業は全てフランス語で行われた。初日から2週間半は、現在形を用いて感情や様々な状況を表現することをメインに授業は進んだ。その後は、過去形や未来形を用いて同様のことを表現する形で授業は進んだ。それぞれについて概要は理解でき、日常で頻度の高いものはある程度使えるようになった。ところで、授業時間や授業の開始時間のルーズさは、日本と比べ物にならない。実質授業がある日は、週3日半である。1日6時間授業であるが、15分休み(日によって変わる。30分休みになったりするときもある。)があり、1時間ほど自分で休みを作っても特に何も言われないため、1カ月で80時間フランス語の授業を受けたとは言い難い気がする。そして、時間をきっちり守るのは、日本人と一部の中国人だけという状況である。カルチャーショックを感じざる負えない。

課外活動等,授業以外の時間にどのような経験を得ることができたか記載してください。(250～300 字程度)

美食の街リヨンで外食することが多かったため、リヨン特有のレストランであるブションでリヨン料理を堪能した。多くのブションでは量に対して価格が抑えめなので、いつも満腹にして返してもらえた。色々食べた中で一番感動させられたのは、サン・マルスランというリヨンを代表するチーズである。とても濃厚で、かつクリーミーなこのチーズはワインととても合う。日本へ持ち帰りたいと思い、リヨン中央市場でサン・マルスランを購入し、これに合うワインも二コラで赤と白それぞれ一本ずつ購入した。また、土日の休みを使ってマルセイユに行った際にブイヤベースを食べたのだが、これがコンビニで売っているカップのインチキ商品とは比べ物にならないほど美味しかった。また、マルセイユの地中海料理専門店を食べたそれは、日本食と共通する繊細さがあった。例えば、ソースに絶妙なテイストのだしを用いており、素材本来の味を引き出す工夫がされていた。

滞在先・現地での生活に関する経験・感想について記載してください。(250～300 字程度)

端的にとっても住みやすい街である。町中にトイレと自販機が在ればケチのつけようがない。パン屋と一部のカフェは朝早くから開いていたので、朝はパン屋巡りをしてカフェでエスプレッソを飲んだ。エスプレッソはどこの店のものもおいしかった。店によって豆の種類が違うので、色々な味を楽しめてよかった。また、フランスが喫煙大国であることを実感した。喫煙者にとって日本と比べれば天国なのではなかろうか。東京の電車是最悪ということも改めて確認できた。どこへ行っても満員電車で、汗をかけたおじさんに押競饅頭を食らわせられる最悪の公共交通機関だからである。リヨンのそれはどの時間帯に乗っても人と人のある程度の間隔があり快適だった。

今後の展望・目標について、留学前と後での変化も含め記載してください。(250～300 字程度)

まず英語を話せなければ、話にならないことが分かった。授業中に生徒同士が意思疎通を図るための言語が英語だったからである。ある程度まではついていけたものの、込み入った話になると何のことやらさっぱりだったため、英語の必要性を身をもって感じた。一方で、現地の人と意思疎通をするにはその地の言葉を使うのが一番だと感じた。フランス語で応答するのと英語で応答するのでは、なんとなく対応のされかたに違いがあるように感じた。これが現実だから仕方がない。また、表現したいことを表現できないむずがゆさは相当なものであった。これらをばねに、英語とフランス語の両方を極めていこうと決心した。絶対やってやる。

写真貼付 (1 枚)

※研修先で撮影した写真を1枚(1MB以内)ご提供ください。撮影場所・写真の説明も記載してください。

マルセイユのビーチ
日光浴をした帰りの一枚



【注意事項】提出された留学報告書は、次年度以降の短期海外研修の募集および未来サポーター募金事業の広報を目的に、原則として当原稿をそのまま外部に公開いたします(学生番号、性別、生年月日、連絡先は公開しません)。

【写真提供の注意事項】※ご提供いただいた写真は、大学の広報誌やウェブサイト、募集説明会の際利用するパワーポイント等、様々な媒体で広く広報に活用させていただく可能性があります。複数の方が写っている写真をご提供いただく場合には、写真撮影の際にその写真に写る方に本学への写真提供について許可を得ていただいたものをご提供ください。